

歴史館だより No.101

2009. 10月 発行



こんどうせいうまがたかざりつきかんむり
金銅製馬形飾付冠

行方市(玉造) 三昧塚古墳 当館蔵



こんどうそうすずつきそうりゅうかんとう た ち
金銅装鈴付双龍環頭大刀

小美玉市(玉里) 伝・舟塚古墳 当館蔵

- ① 展示紹介「特別展 かがやきにこめた権威と荘厳 ―金と銀の考古学―」
- ② 収蔵史料紹介
- ③ 新規収蔵作品紹介「松島御島秋晚図」
- ④ トピックス

展示紹介

特別展「かがやきにこめた権威と荘厳 ―金と銀の考古学―」

平成 21 年 10 月 10 日（土）～11 月 23 日（月・祝）

金と銀の輝きは古代から人々を魅了し続けています。特に金はその輝きと希少性に加え、耐錆性に優れ、展性に富むことから貨幣や装飾品に利用されてきました。わが国は、弥生時代に金と銀に出会い、古墳時代には金と銀を用いた装身具や武具とともに加工技術が伝わり、次第に地方権力者にまで金と銀の魅力は浸透していきました。また、平安時代には貴族により光り輝く経筒や仏像が未来に向けて埋納されました。この世から来世に伝える荘重な世界を感じることもできます。さらに、中世・近世には鉱山の開発による産出量の増加と金工技術の発展により、より多くの金・銀を用いた場面が登場しました。屋根を飾る金箔の荘厳はその代表的なものです。

本展は、各地の古墳や城跡から出土した金・銀で装飾された考古資料をもとに、権力者である被葬者の姿や中央権力との関係などを探るとともに、人々を引きつける金・銀の魅力を紹介しようとするものです。

みどころ

1 金銀のきらめき

金・銀を用いた装身具の多くは、1000 年以上もの間古墳や遺跡に埋まっていたにもかかわらず、緑青の間からのぞかせる金色や、燻し銀のような黒い輝きは当時のきらびやかさを彷彿とさせます。



こんどうせいゆびわ
金銅製指輪

埼玉県牛塚古墳出土
川越市立博物館

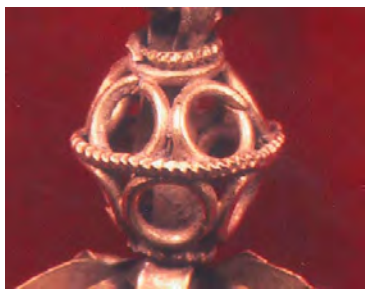


きんせいすいしよくつきみみかざり
金製垂飾付耳飾

滋賀県鴨稻荷山古墳出土
東京国立博物館

2 いにしへの匠の技

古墳時代は技術革新の時代でもありました。朝鮮半島や中国からもたらされた金属製品は、それらを作り出す技術もいっしょに伝わりました。考古資料で輸入品か国産品かを区別するのは大変困難ですが、いずれにしても 1000 年以上前の職人の精緻な技には敬服させられます。



きんせいすいしよくつきみかざり
金製垂飾付耳飾 (部分)

兵庫県西宮山古墳出土
京都国立博物館

重文 ぎんぞうがんえんとうちつかがしら
銀象嵌円頭大刀柄頭

群馬県平井地区1号墳出土
藤岡市教育委員会



3 権力の象徴

いつの時代でも、富と権力は切っても切れないもので、金・銀をこよなく愛した権力者たちは、その財力に物をいわせて、豪華な装身具や建築物、そして、仏具に金・銀を用いました。



重文 じゅうにそんれんざせんぶつ
黒漆塗り金箔貼り十二尊蓮座塙仏

山田寺跡出土
奈良文化財研究所



国宝 藤原道長経筒
奈良県金峯山経塚・金峯神社

4 国宝のかがやき

藤ノ木古墳は発掘調査による発見以来、考古学的資料としても、美術工芸品としても高い評価を受けています。製作技術の高さ、副葬品としても類をみない豊富さなど、計り知れない価値を持っています。今回その一部を展示できることになりました。その眩いかがやきを堪能して下さい。



こんどうせいほうようつきかざりかなぐ
金銅製歩揺付飾金具

藤ノ木古墳出土

文化庁・奈良県立橿原考古学研究所附属博物館



こんどうせいえんけいかざりかなぐ
金銅製円形飾金具

5 金・銀の魅力

きらめく宝石や貴金属を魅了するのは権力者だけではありません。金・銀は古くから重用され、その輝きや性質に人々は憧れました。今でも、金・銀は人々を魅了し続けています。なぜ、金・銀は人々を引きつけるのでしょうか？この謎に挑戦してみてください。

関連行事

◇講演会「金銀の財宝をまとった茨城の豪族たち」

日時：平成21年10月25日（日）午後1時30分より

会場：当館 講堂 ＊要入館券

講師：大塚 初重氏（明治大学名誉教授）

定員：先着200名

◇講座「輝ける鈴を愛する日本人」

日時：平成21年11月8日（日） 午後1時30分より

会場：当館 講堂 ＊要入館券

講師：田中 裕氏（茨城大学准教授）

定員：先着200名

◇展示解説・ミニ講座

日時：平成21年10月24日（土）・10月31日（土）・11月1日（日）

午前の部11時より 午後の部2時より

会場：当館 講堂 ＊要入館券

担当：茨城県立歴史館 学芸課 首席研究員 長谷川 聡

収蔵史料紹介



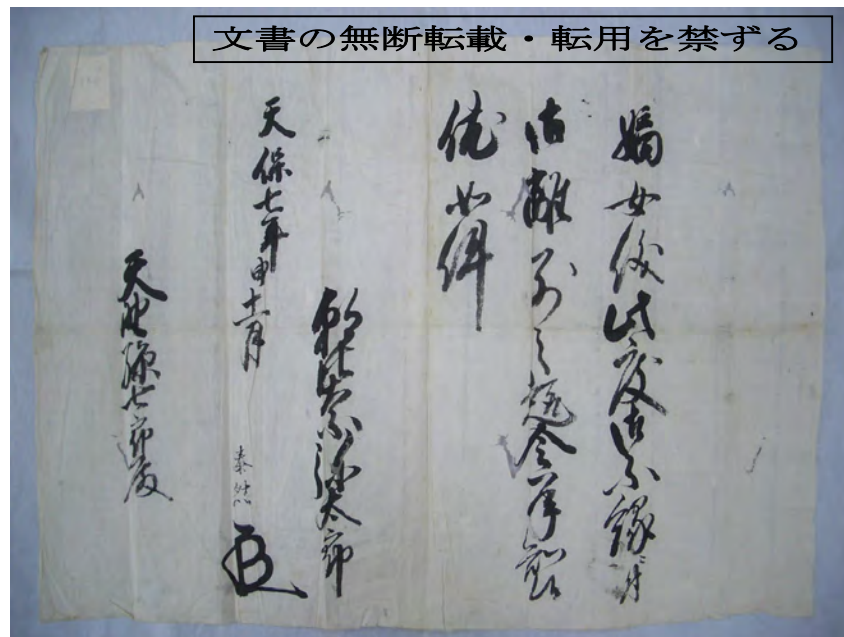
岡崎昭子家No. 4 0 6（女髪形之仕様図）27.5 cm×189 cm

この史料は、文末に「天保五年午五月朔日 鈴木石見守殿ヨリ被廻候所之絵図也」と記されており、内容から見て水戸藩の天保の改革時に出されたものと推定されます。

文政12年（1829）、水戸藩主に就任した徳川斉昭は、果敢に藩政改革を遂行しました。まず士風の刷新に着手し、家中の風俗の華美を戒め、衣食住について厳しい禁令を出しました。『水戸藩史料 別記巻七』には「公（斉昭）は時年すでに三十一、久しく藩邸に静居して、上下放縦風俗頹壊の状を熟知せるが故に、首として驕奢を抑え、儉素を尚（たっと）び、弊風を矯正し、士気を振作するに努めたること、枚挙に遑（いとま）あらざりき」と記しています。実際に初午飾りの禁止、家中の琴・三味線の禁止、端午の幡旗の制限、家中一同綿服着用令、上巳雛飾りの内裏雛以外の禁止、新年松飾りの制限など、次々と打ち出しました。

写真の史料は、水戸家中の武士の妻子、すなわち子どもから尼、隠居の老年の女性にいたるまで、御簾中や姫君、奥女中ら大奥の女性たちも含めた、武家の女性すべてに向けて出された髪形に関する定めです。当時すでに女性の髪形には、さまざまな形があり流行もありましたが、史料によれば京風、江戸風を勘案し、卑しくないものを選び一つに定められました。定め髪にする時には、櫛は用いず、筭（こうがい）、簪（かんざし）などもいずれか1つあれば済むことで、そうすれば無益の出費も止むとしています。さらに櫛、筭、釵（＝簪）などを多くさして飾るのは遊里芝居の風俗で、武家の妻娘にはあってはならないとし、流行に流されることがないようにと諭しています。斉昭が女性の髪形にまで規制を加えていたことがわかる、新しい史料です。

年代別の髪形はそれぞれ、前、脇、後の3方向からの絵で示されており、髪も一本一本丁寧に描かれています。水戸藩の天保の改革の一端を知るのみならず、幕末の武家の女性の髪形を知る史料としても貴重な史料といえます。



岡崎昭子家No.5 4 1（嫡女の儀此度不縁に付き離別の趣承知の件書状）30.0 cm×41.5 cm

嫡女儀此度御不縁に付	御離別之趣令承知候	依如件	朝比奈弥太郎	天保七年申十一月 泰然（花押）	天野孫七郎殿
------------	-----------	-----	--------	-----------------	--------

この史料は、武家にはめずらしい離縁状です。

武士は縁組＝結婚，離縁・離別＝離婚においては，支配頭をとおして藩への届け出が必要でした。武士の結婚は一般的な傾向として，夫婦両家の家格を比較した時，同格か妻の家格の方が高かったこと，離婚率や再婚率が高かったことなどが明らかにされてきています。

武士の離縁は，男女両家から藩へ届け出ることによって成立するので，離縁状の授受は必要なかったとされています。また，一説には離縁状の授受は慣習としてなされていたともされています。伝存例が少ないことが，全く違う2説を生んでいるようです。

この史料は長女の離婚について了承した旨を，父が娘の元夫に宛てて出しています。父は，朝比奈弥太郎泰然，この時 1300 石の城代でした。相手方天野孫七郎は，いまだ出仕前の身分だったようで，父はこの時 500 石，小姓頭でした。朝比奈家は家老，天野家は若年寄を代々務める家柄で，ともに水戸藩譜代の家臣でした。

この離縁状は正確には，天野孫七郎から離縁状が出され，それに対する「離縁受取状」という性格の文書です。史料中，「令承知候」は「承知いたしました」という丁寧な表現で，そういった言い回しや，署名に花押を据えている点などは，きわめて中世的な表現で，儀礼的な様式が窺えます。武家の間でも離縁状の授受が行われていたことを推察させる史料です。

離婚したふたりの年齢はわかりませんが，早期の離婚だったようで，ともに再縁しています。

新規収蔵作品紹介

まつしま おしましゅうばん ず 『松島御島秋晩図』



江戸時代 文化7年（1810）立原杏所筆

絹本彩色 寸法 （縦35.7 cm×横51.7 cm）一幅

江戸初期以来言いならされてきた日本三景の一つ、松島は宮城県松島湾内に散在する大小260余島と湾岸一帯の名勝地です。古くは、平安時代から歌枕や名勝として都人に知られる存在でした。雄島は東西に40m、南北に200mの島で松島八景の中に、「雄島夕照」があります。夕日に映える雄島の風景が名勝の一つとされました。

本作品は、文化7年（1810）の秋、杏所25歳の作品です。陸前浜街道から仙台に入り松島の御（雄）島を、海を藍、岸边を代赭、お堂の廻りの松樹を藍、草汁で描いたものです。画面右から奥の細道碑などの碑、見仏堂、薬師堂、松吟庵、岩窟のある崖と、今は見ることができない建築物のある景色を今に伝えています。何とこの景色、海側から見た景色です。遊覧の船に乗ったのか、小舟を手配したのか・・・残念ながら記録が残っていません。松島図は、杏所以外にも19世紀には、海側・陸側から実に多くの作品が描かれています。

杏所は二十代でさまざまな真景図を残しました。本作品以外では、「水府城真景」「豆相名勝真図」「那珂湊図」や「袋田瀑布図」などがあります。

たちはらきようしよ
立原 杏 所

天明5年（1785）12月16日～天保11年（1840）5月20日

水戸藩の彰考館総裁をつとめた儒者の立原翠軒（1744～1823）の長男として水戸下市横竹隈（現在の柳町二丁目）に生まれ住みました。享和3年（1803）19歳で家督を嗣ぎ、治紀（武公）、斉脩（哀公）、斉昭（烈公）3代の藩主に仕えました。文化9年（1812）28歳で江戸藩邸勤務となり、小石川藩邸に居住しました。江戸で谷文晁につき、同門の渡辺崋山らとも親しく交流しました。謹直な筆致で、気品のある作品を多く描きました。天保11年5月20日 江戸小石川藩邸内で亡くなりました。享年56歳でした。

トピックス

平成 21 年度後半の注目行事

特別展Ⅱ「親鸞－茨城滞在 20 年の軌跡－」

平成 22 年 2 月 6 日（土）～3 月 22 日（月・祝）

鎌倉時代、浄土真宗開祖の親鸞は、その生涯のうち 20 年を茨城で過ごしました。

親鸞の生涯と思想、親鸞を支えた家族と当時の社会、親鸞が育て帰洛後もその教えを引き継いだ弟子（同胞）たちの活動という観点から茨城における親鸞の軌跡をたどり、滞在 20 年の意義を探ります。

主な出陳予定資料

国宝 教行信証（坂東本）

重要文化財 善性本親鸞聖人消息集

重要文化財 拾遺古徳伝絵

恵信尼公画像（初公開）

茨城県指定文化財 親鸞聖人画像



▲親鸞聖人画像（茨城県指定文化財）

歴史館いちょうまつり - 「和の文化」の祭典 -

開催期間 11 月 1 日（日）～11 月 23 日（月・祝）の土・日・祝日及び県民の日

庭園にある銀杏並木の美しい時期に、落語やお茶会、和楽器の演奏会など、日本の伝統文化を楽しむイベントを実施します。

主な行事

11 月 3 日（火・文化の日） 小中学生よろい・かぶと体験（午前 10 時～整理券配布）

11 月 13 日（金・県民の日） 民家解説（午前 11 時～、午後 14 時～）**入館無料**
常陸秋そばの販売（1 食 500 円・300 食限定）

11 月 14 日（土） 琴・尺八の演奏会 午前・午後の 2 回

11 月 15 日（日） 落語家 三遊亭金時氏の講座 午後 2 時～午後 4 時

11 月 22 日（日） 野点 午前 10 時～、昔遊び

平成21年度 上半期の事業から

小・中学生「よろい・かぶと体験」

5月5日（火・祝），8月23日（日）



▲よろい・かぶとをつけて撮影

開館前から整理券を求めて行列ができるほどの人気で、用意した整理券は、あっという間になくなってしまいました。

体験が始まると、子どもたちは歴史館ボランティアの方に手伝ってもらいながらよろいやかぶとを身にまとい、ポーズをとって笑顔で記念撮影をしていました。

「重くて戦えたのかな」などと、よろいやかぶとの着心地を十分に実感できた様子うかがえました。

次回は11月3日（火・祝）に開催します。

歴史館探検ツアー

6月14日（日）



▲収蔵庫内で研究員に説明を受ける様子

子どもたちと保護者たちが参加し、収蔵庫や機械室、貴賓室など、普段では見ることができない歴史館の裏側を探検しました。

子どもたちは県内の古墳から出土し、歴史館にて展示している「金銅製馬形飾付冠（こんどうせいうまがたかざりつきかんむり）」をかたどった冠を作り、歴史館ならではの体験を満喫しました。

参加した子どもたちからは「本物の土器が見られて面白かった」などの声が聞かれました。

県指定文化財の旧水海道小学校を見学した後、一人一人に認定証が手渡されました。受け取ったものをうれしそうに見ている子どもたちの姿がとても印象的な場面でした。

次回は11月28日（土）に開催します。

歴史教室

6月6日（土），9月12日（土）



▲歴史教室の参加者

当館研究員が，日頃研究している成果の一端を発表するために毎年開催しているものです。第1回目は主任研究員 沼澤佳子による「徳川慶喜の懐刀と呼ばれた男 原市之進」，第2回目は首席研究員 富田任による「菊池謙二郎とその時代の教育界」のテーマでの発表がおこなわれました。

第3回 12月5日（土）

「茨城常磐炭田の歴史」 担当：鈴木教郎

第4回 1月23日（土）

「金砂合戦再考」 担当：宮内教男

時間：午後2時～4時／当館講堂

定員：200名（先着順）

対象：高校生以上

歴史館コンサート

5月22日（金）

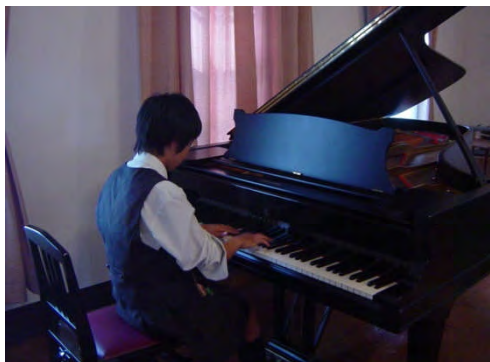
スタインウェイ＆サンズ社が1865年に製造したグランドピアノでのコンサートです。平成21年度第1回は伊東ありさ氏によるピアノ演奏があり，鑑賞者はその美しい音色に感動していました。

次回は10月23日（木）、12月11日（金）に開催いたします。

10月は長野安恒氏のバスバリトンと秋山千賀子氏のピアノ伴奏によるアンサンブルで，日本の名曲を中心にお話を混ぜながら演奏します。（10月の申込受付は終了しました。）

小・中学生いにしへのピアノ演奏体験

5月23日（土）・24日（日） 2日間



▲演奏の様子

歴史館コンサートでも使用したスタインウェイ＆サンズ社のグランドピアノを用いた年に3回実施しています。

参加した子どもたちは，歴史あるピアノを演奏し，緊張しながらも普段ではなかなかない貴重な体験を楽しんでいました。

次回は11月22日（土）・23日（日）に開催します。

歴史館ボランティアの方によるイベントが開催されました！

「ちょっと昔のあそび 紙ひこうきをつくってとばそう！」

7月26日（日）

午前の部，午後の部の2回実施し，たくさん子どもたちが参加しました。歴史館ボランティアの方に教えてもらいながら，いろいろな形の紙ひこうきを作りました。一緒に参加した保護者の方も，夢中になって紙ひこうきを飛ばしていました。参加した子どもたちからは，「うまく飛ぶ投げ方を練習しよう」「羽の部分を改良してみようかな」などの感想が聞かれました。

次回は9月26日（土），12月20日（日），1月17日（日）に開催します。

歴史館まつり

8月23日（日）



▲「水戸藩歴史講座」の参加者

歴史館まつりは，多くの方に歴史館に親しんでいただくことを目的に，毎年この時期に開催しています。当日は，館内及び庭園内で多くのイベントが行われました。

「水戸藩歴史講座」では，歴史館の永井 博研究員により，「水戸藩成立三つの謎ー石高・官位・定府ー」をテーマに水戸藩成立の過程について解説をし，多くの参加者が熱心に耳を傾けていました。



▲わくわくドキドキ子ども体験広場

また，まがたま作り体験では，歴史館ボランティアから作り方を教わりながら，親子でまがたま作りにチャレンジしたり，歴史館ウォークラリー，県警音楽隊によるコンサート，いばらき蕎麦の会による手打ちそばの販売などが行われ多くの参加者でにぎわいました。

水戸藩歴史講座

水戸藩初代藩主である徳川頼房が水戸藩主となってから 400 年を記念して展開される「水戸藩開藩 400 年記念事業」に関連し、水戸藩に関する歴史を学ぶ講座を年 5 回開催しました。

第 1 回 8 月 23 日（日） 「水戸藩成立三つの謎ー石高・官位・定府ー」担当：永井博

第 2 回 9 月 5 日（土） 「義公 光圀の生涯」担当：桜井明

第 3 回 9 月 19 日（土） 「大日本史編纂始末」担当：桜井明

第 4 回 10 月 3 日（土） 「斉昭と慶篤」担当：永井博

第 5 回 10 月 17 日（土） 「奥女中のみた幕末の水戸藩」担当：笹目礼子

時間：午後 2 時～午後 4 時／当館講堂 定員 200 名（先着順）

対象：高校生以上

トピックスでご紹介した内容は、茨城県ホームページ「県政ホットニュース」、茨城県教育委員会ホームページ「フォトニュース」にも同様の内容で掲載されています。

上記事業の内容及び今後の予定についてのお問い合わせは、

茨城県立歴史館 教育普及課 電話 029-225-4425

または、ホームページの「お問い合わせ」からメールをお送りください。